



# シネリテラシー 実践報告

## @広野中学校(双葉郡)



シャロームでは、震災前より地域での映画制作による「シネリテラシー」の実践を行ってきました。シャロームの会員でもある千葉茂樹監督とともに地域での映画づくりを行ってきました。この活動は、地域の人たちの豊かな人間力を養うことができます。

震災後は、一般社団法人リテラシー・ラボ(代表・千葉偉才也氏)からの依頼を受け、三年前より福島県双葉郡広野町の広野中学校において、「シネリテラシー」の授業を受け持つことになり、「シネリテラシー」の活動を行ってきました。今年も七月八月九月の事前授業と九月十一日から九月十三日までの撮影から映画上映会を開催し、子どもたちにとって大きな体験となったことと思います。

広野町の広野中学校では、

総合学習の授業として、地域を取材し映画制作を行う「シネリテラシー」を取り入れていきます。震災が起き、避難を余儀なくされ一時的にもコミュニティがバラバラになってしまいました。震災以降、避難場所を転々とした子どもたちもたくさん居ます。その中で、故郷に帰ってきた子どもたちにとって、故郷の正しい理解を学ぶことの重要性が増しており、その教育的課題の解決の手法として、「シネリテラシー」が用いられました。

映画制作を通じて学びの手法は全国でも行われてきましたが、被災地での地域理解・復興を目的とした映像教育としての取り組みは、広野町が先駆的なモデルとなっておりま

す。震災・原発事故という負のイメージが強い福島県ですが、地域の人々にとって、生まれ育った「ふるさと」であることは変わりません。その故郷をあらためて学ぶ機会があることは、地域の人々や子どもたちにとってもとても重要で、アイデンティティ

の形成に大きな影響を持ちます。シネリテラシーの発祥は、オーストラリアにおいて公教育として国語教育の一環で行われてきてきました。多文化型民族国家であるオーストラリアでは、多様な人種が共に生活しており、多様な存在を認め合う力を養うため、シネリテラシーが用いられて来ている。これは、原発事故によりハンデを負ってしまった福島におい

ても同じことが言えます。福島にゆかりのある人間がいじめにあうなどの問題は、日本全体が福島の理解不足と認め合うことが出来ないために起こっている社会問題と言っていると思います。福島に住む私達は、その地域理解を深め、それを理解してもらうための情報発信力を得る必要があります。福島の子もまたちにとっても、家族の大切さや共に生きる地域の大切さを学び、自己表現力を養うことがより重要な学習課題となっております。シャロームは飯館村の支援も継続しております。飯館村は今年避難指示が解除され、来年度には飯館村の小学校中学校が村に戻ります。小学校中学校一貫教育を行うことになっております。新しい村づくりを行っている飯館村の学校教育においても今後「ふるさと」を学ぶ総合学習はとても重要になってきております。そういう意味においては、「シネリテラシー」はとても有効な教育手法と考えております。

(UDセンター・佐藤

これからこの「シネリテラシー」のノウハウを活かした活動を積極的に展開していきたいと考えております。



▲授業を終えて、広野中学校の生徒さん、先生、シネリテラシースタッフで記念撮影。

### シネリテラシーとは

映画(シネマ)を論理的に読み解き、映画を創ることをいいます。初等・中等教育の現場に取り込み、「映像を深く読み解き・書く過程=映画の製作」を通じて、子供たちに楽しい学習体験をさせながら、共同作業を通じて人間教育、コミュニケーション能力の育成や学習意欲の向上をもたらします。

### 聖書の科学

〈講師〉三神 たけるさん(学研パブリッシング『ムー』編集長)

〈日時〉2017年11月11日(土)13:30~15:00

〈場所〉まちなか夢工房2階(参加費)500円

#### 〈講演内容〉

今もなお多くの科学者たちによって研究が進められている、地球やそこに住む生命体。月刊パブリッシング「ムー」編集長の三神さんには、聖書を通して、それらを科学視したお話をご披露頂きます。聖書から見た地球の歴史や今後の未来についてお話いただきます。

#### 〈講師紹介〉

1968年、青森県生まれ。筑波大学自然科学類卒業。1991年、学習研究社(学研)入社。『歴史群像』編集部3か月を経て、入社1年目から『ムー』編集部。2005年に5代目編集長就任。俗にムー的なことと呼ばれる分野全般を自ら「謎学」と呼び既存の常識にとらわれず、素朴な疑問から大胆な仮説へ"をモットーに、その研究にいそしみ、作品を「ムー」誌上で発表する。趣味は山登りで、一年のほとんどを日本全国のミステリースポットや遺跡の探訪に費やしている。

\*参加人数把握の為、地元学講座各回ごとに欠けのご連絡をいただければ幸いです。(tel 024-524-2230 または fax 024-525-8285 までお願いいたします)

教養講座  
地元学を考へる

第百六十七回予告